

投票する大学生

～参議院議員通常選挙から見る大学生の「政治意識」～

吉田 美穂（文教大学情報学部メディア表現学科）

1. はじめに

1-1. 調査背景・目的

長年、若者の投票率の低さは問題となっている。国は公職選挙法の一部を改正し、現代に沿った改革を進めることで投票率の上昇を図っている。近年改正された例としてあげると、平成25年4月19日に公職選挙法の一部が改正され、同年5月26日の施行により「インターネット選挙運動」（インターネットを利用した選挙運動）が解禁となった。しかし、改正後初めて適応される事例となった同年の7月21日の第23回参議院議員普通選挙の投票率は、全ての年代で減少傾向が認められ、「インターネット選挙運動」の効果を十分に発揮できていないといえる（資料-1参照）。

私が調査を行った平成28年は、偶然にも第24回参議院議員普通選挙（以下参院選）の年であった。公職選挙法などの一部を改正し、平成27年6月に成立、平成28年6月19日に公布された選挙権年齢引き下げが適応された初の国政選挙でもある。従来の選挙権は満20歳以上とされていたが、今回の選挙権年齢引き下げにより満18歳以上となった。国は、「選挙権年齢の引下げによって、ますます若い世代が政治に関心を持ち、積極的に政治に参加することが期待されています」と発表している（総務省,HP）。世間でも18歳選挙権について大きく取り扱われ、教育の現場で行われていた模擬選挙が注目されることになった。模擬選挙に取り組んでいる学校に取材を行った記事によると、「選挙権年齢引き下げが決まった一昨年、初めて試みた」（朝日新聞,2016）としている。このことから、選挙権の引き下げが教育の現場に与えた影響は少なからず存在し、マスメディアも朝日・読売・毎日といった全国紙のHPや紙面に「18歳選挙権」についての記事カテゴリーが登場するなど、年齢引き下げに関して大きく注目していた。

「18歳選挙権」は大学生も例外ではない。むしろ大きな影響を受けた世代とも言える。従来とは違い、飛び級といった特殊な事例を除いた全ての大学生が選挙権を獲得することになった。そして改正が適応される第24回参院選に合わせ、私は投票期間後の大学生の政治に対する態度や思考を分析・調査できる機会ではないかと考え、調査実施の計画を固めることにした。

調査実施中は発表されていなかったが、現在では第24回参院選の投票率の結果が公開されている。総務省のデータによると10代の投票率は46.78%としている。これは20代の投票率35.60%と30代の投票率44.24%を上回る結果となった（資料-1参照）。また、10代の投票率の内訳として総務省は18歳の投票率が51.28%と発表しており、「主権者教育等による一定の効果が出たもの」と考えられるとしている（総務省「国政選挙における年代別投票率について」,HP）。

そもそも18歳選挙権の認知度は非常に高く、明るい選挙推進協会が行った15歳~24歳を対

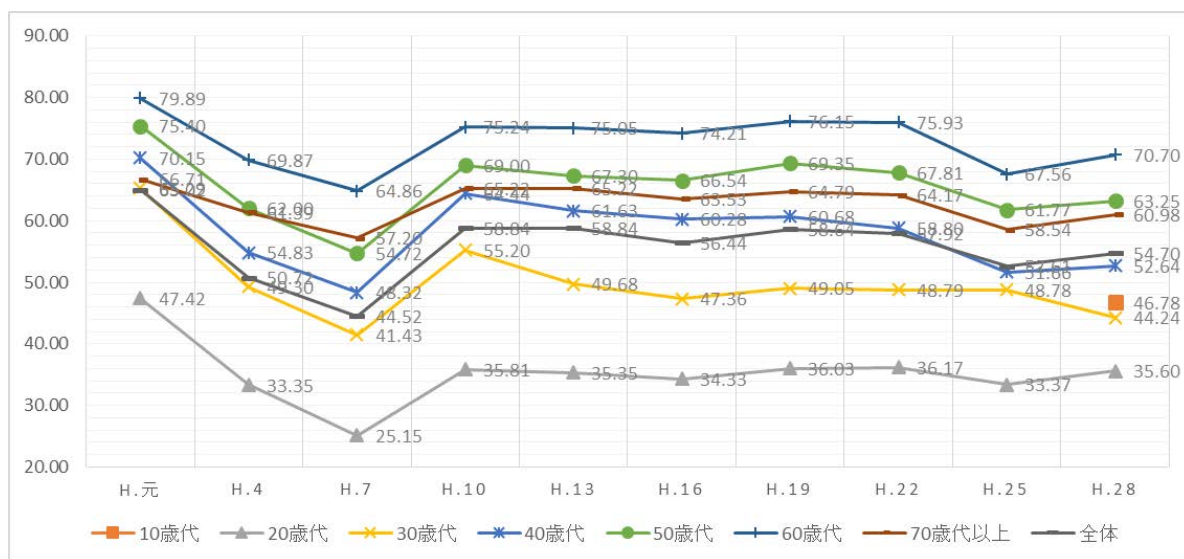
象とした認知度調査によると、全体で「知っていた」と回答したものが 87.4%、「知らなかった」という回答が 12.6%となった。また、調査結果によると最も認知度が高かった世代は 18 歳の「知っている」91.9%、

「知らなかった」8.1%だった (明るい選挙推進協会,PDF)。また、総務省によると選挙後に「投票に行った」と回答した 1,574 名に今後も投票に行こうと思うかを調査したところ、「毎回行こうと思う」47.8%、「できるだけ行こうと思う」40.9%、「関心が持てる選挙だけ行こうと思う」5.0%、「積極的に行こうとは思わない」3.3%、「わからない」3.0%の順となり、次回の参加に肯定的な意見(「毎回行こうと思う」「できるだけ行こうと思う」「関心が持てる選挙だけ行こうと思う」の3項目)が 93.7%を占めていることが判明した (総務省,PDF)。総務省の結果からは、18 歳選挙の影響によって若者が今後も選挙に行く習慣ができるのではないかと考察もできる。

これらの結果から考察すると「18 歳選挙権」の話題が、投票行動の有無になにかしらの影響を与えたのではないだろうか。そして若者、特に 10 代の政治に対する態度は無関心と言えないのではないか。

私は、「18 歳選挙権」で選挙権を獲得した学生が選挙に対してどのような思考・行動を行ったのかを調査するために、未成年である大学 1 年生を対象とした授業を対象に調査票による自記式の集合調査を実施した。

資料-1. 参議院議員普通選挙における年代別投票率 (抽出) の推移 (単位:%)



「参議院議員通常選挙における年代別投票率の推移」,総務省,HP より筆者作成

2. 調査研究の方法

2-1. 進捗経緯

4月～6月：

事前調査・テーマ討論

7月：

調査実施

7月～12月：

調査票回収・集計・分析

1月～2月：

分析・報告書作成

2-2. 研究仮説・調査仮説

本稿の研究意図を明確にするため、公職選挙法の改正（18歳選挙権）によって、未成年の政治的関心度が高くなっているのではないかと考え、以下の調査仮説を作成した。

- ①投票に行かない理由は、不在者投票といった制度が知られていないからではないか。
 - 選挙制度の知識不足によって、投票率が異なる
- ②一人暮らしの人は、実家暮らしの人よりも投票率が低い。また、政治的関心も低いのではないかと考え、以下の調査仮説を作成した。
 - 家族との会話の有無によって政治参加意識が異なる
- ③メディア媒体の利用や参考にしたメディア媒体によって、政治的関心の高さが異なるのではないかと考え、以下の調査仮説を作成した。

2-3. 調査概要

調査対象者：文教大学湘南キャンパス学生

日 時：7月12日（火）

授 業 名：「社会学概論」

調 査 方 法：調査票を用いた自記式の集合調査

表-1. 全体のサンプル数と無効票の割合

	有効票数	無効票数	合計
度数	116	7	123
パーセント(%)	94.3%	5.7%	100.0%

2-4. 質問項目

- ・選挙に関する知識を問う問題
- ・日常的に利用しているメディアについて
- ・第24回参院選の投票に参加した否か。またその理由（記述）について
- ・投票時参考にした情報媒体について
- ・家族、友人との政治的会話の頻度について
- ・18歳選挙権の賛否、またその理由（記述）について
- ・デモ行為・政治的団体への参加の有無、またはその理由（記述）について
- ・模擬選挙経験の有無について

3. 調査研究の成果

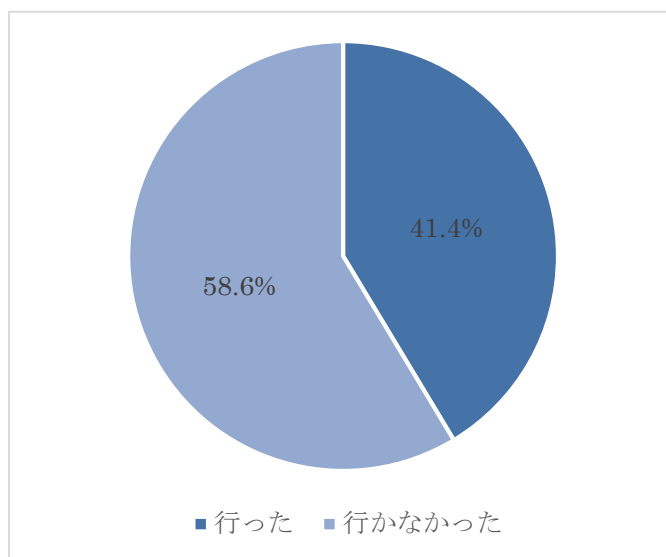
3-1. 第24回参議院議員普通選挙の投票について

回答者の内訳として、「男性」が43.0%、「女性」が56.1%、「その他」が0.9%で、年齢が「18歳」が61.1%、「19歳」が31.0%、「20歳」が5.3%、「21歳」が2.7%という結果になった。20歳未満の回答率が全体で92.1%となった理由として、大学1年生対象の授業で調査を実施したことが影響したと考えられる。

3-1-1. 回答者の投票行動

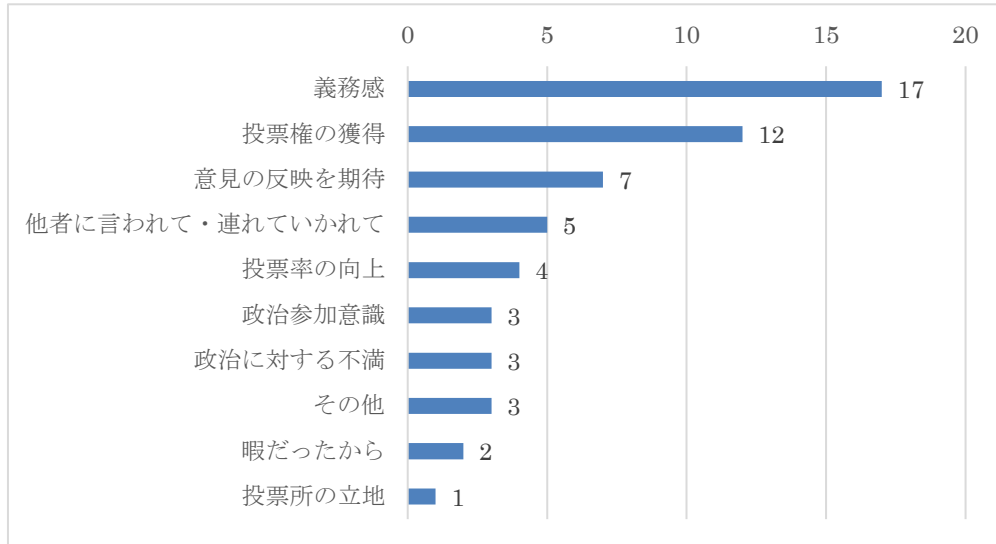
第24回参院選の投票に参加したかどうかと尋ねたところ「行った」が41.4%、「行かなかった」が56.8%という結果となった。今回の回答者には成人も含まれていたが、全体の10%未満と非常に低いため総務省が発表した10代の投票率の「46.78%」と近い数値を示したのではないと思われる。

図-1. 参院選の投票について (N=116, 単位:%)



3-1-2. 投票に参加した理由について

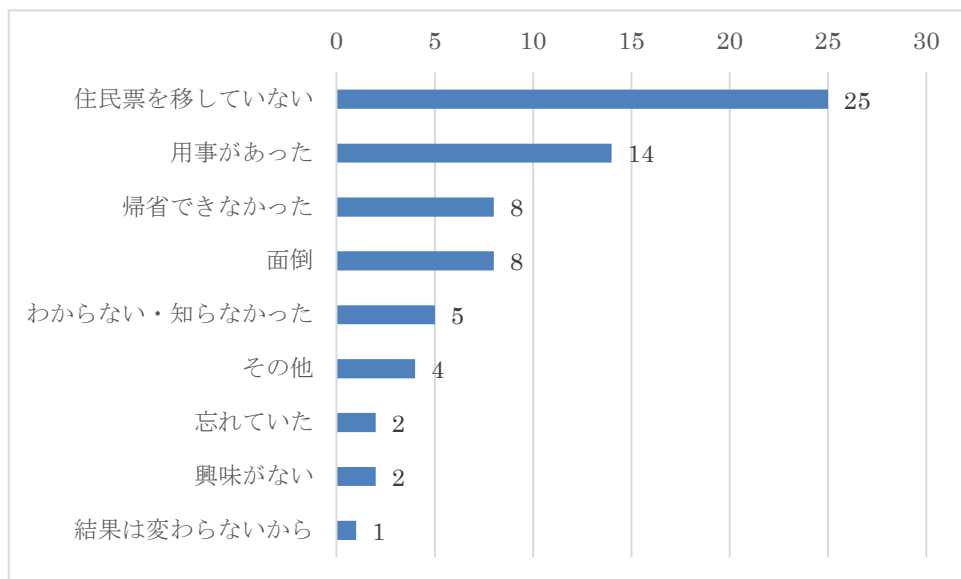
図-2. 参院選に投票に参加した理由



投票に「行った」と答えた回答者に理由を記述方式で尋ねたところ、最も多い意見として目立ったのは「義務感」の категория だった。次いで「投票権の獲得」が多く、18歳選挙権を与えられたことが、投票しなくては行けないという義務感を生んでいると考察できる。

3-1-3. 投票に参加しなかった理由について

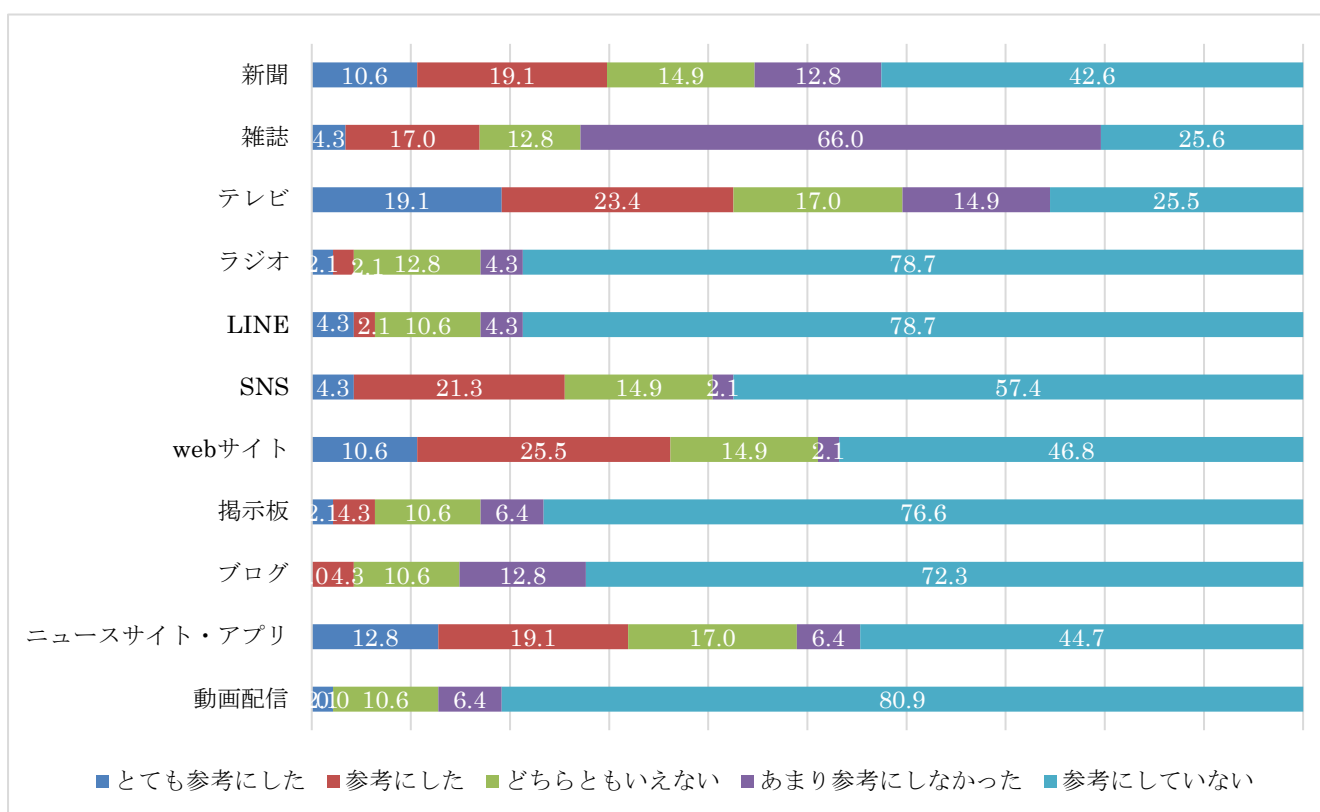
図-3. 参院選に投票に参加しなかった理由



投票に「行かなかった」と答えた回答者に理由を記述方式で尋ねたところ、「住民票を移していない」というカテゴリーが最も多かった。次いで「用事があった」、「帰省ができなかった」というカテゴリーとなった。3番目に多い「帰省ができなかった」は住民権を移していないため、投票ができなかったとも受け取れることを考慮する余地がある。

3-1-4. 投票時に参考にしたメディア媒体について

図-4. 投票時に参考にしたメディア媒体 (N=47, 単位:%)



※参考メディアに関する設問に設置した「その他」のカテゴリーはサンプル数が極端に少ないため、除外する

図-4は投票に「行った」と回答した人々に「新聞」、「雑誌」、「テレビ」、「ラジオ」、「LINE」、「SNS」、「掲示板」、「ブログ」、「ニュースサイト・アプリ」、「動画配信」のカテゴリーをどの程度参考にしたのかを明らかにしたものである。1番「とても参考にした」が多いのは「テレビ」の19.1%であった。次いで「ニュースサイト・アプリ」12.8%、「WEBサイト」と「新聞」の10.6%を参考にしたと答えている。全体的に「とても参考にした」「参考にした」を合わせて読み取ると、上位3位は「テレビ」、「WEBサイト」、「ニュースサイト・アプリ」の順となった。

「テレビ」の高い数値は、マスメディアの影響力を実証する結果となったが、後を継ぐように「WEBサイト」、「ニュースサイト・アプリ」といったインターネットを活用するメディア媒体が上がったのは、現代のメディア情勢を反映していると考察できる。

3-1-5. 投票行動と普段利用しているメディア媒体

図-5. 投票行動と普段利用しているメディア媒体

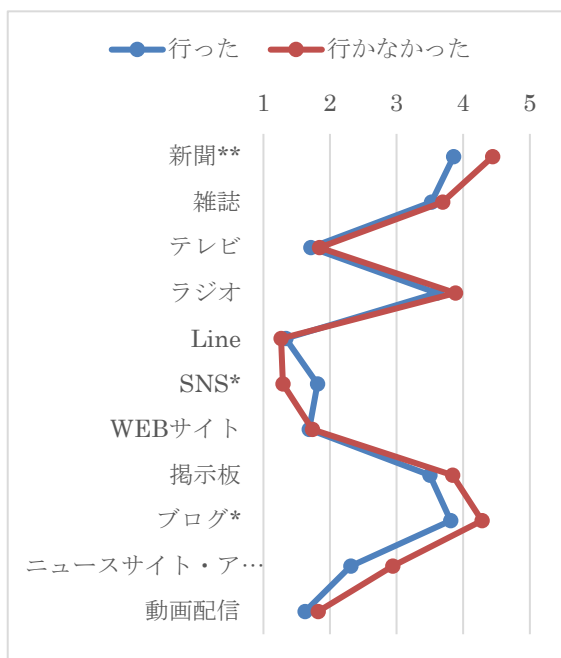


図-5 は投票行動と普段利用しているメディア媒体の関係性を明らかにするために t 検定を行ない検証したものである。結果として、「SNS」($t=2.41, df=67.77, p<.05$)、「ブログ」($t=-2.15, df=114, p<.05$)、「ニュースサイト・アプリ」($t=-2.53, df=114, p<.05$)の項目で 5%水準の有意差が認められた。また「新聞」($t=-2.8, df=75.12, p<.01$)の項目では 1%水準の有意差が認められる結果となった。

縦軸グラフに整理すると、投票に「行った」と回答した人は「SNS」を除き有意差が認められた媒体を「行かなかった」と答えた人よりも多く利用していることが理解できる。しかし、「SNS」の項目は「行かなかった」と回答した

人の方が多く利用している。このことから、SNS の利用は投票行動を実行するにあたって、負の影響があると考察できるのではないだろうか。

※1に近いほど「頻繁に利用している」5に近いほど「利用していない」

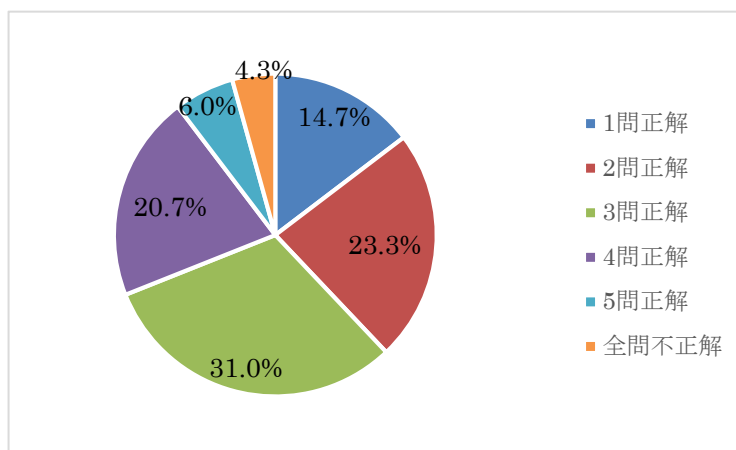
※また、普段利用しているメディア媒体に関する設問に設置した「その他」はサンプル数が極端に少ないため除外する。

3-2. 投票行動と選挙知識

仮説①の検証として「選挙日」、「投票受付時間」、「不在者投票制度」、「ネット選挙」、「18歳未満の選挙」について5つのクイズ形式の設問を配置し、それぞれの問題の正誤と投票行動の関係についてカイ二乗検定を行った。

3-2-1. 選挙知識の正解率

図-6. 5つの設問の正誤 (N=116, 単位:%)

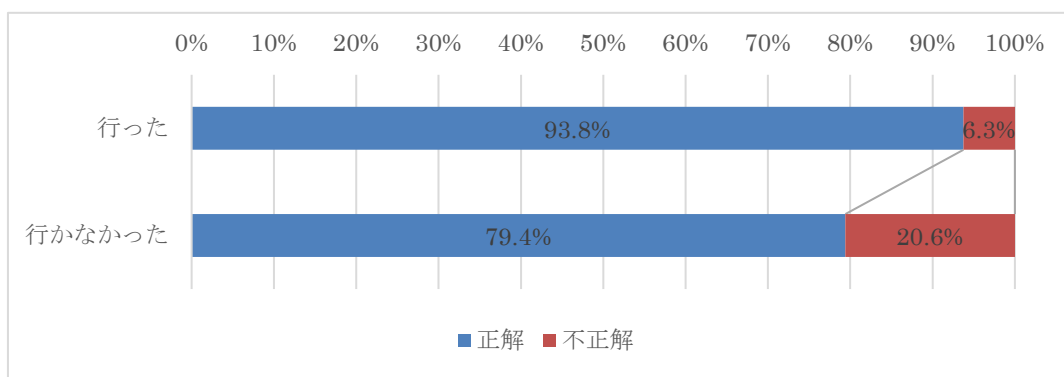


選挙に関する 5 つの設問の正解率は、「投票受付時間」と「不在者投票制度」についての設問以外は正解率が半数を超えている結果となった。「選挙日」に関する設問は「正解」85.3%、「不正解」14.7%という結果となり、5 つの中で最も正解率の高い設問となった。反対に「不在者投票制度」に関する設問は「正解」34.5%、「不正解」65.5%となり、設問中最も正解率の低いものとなった。

5 つの設問の正解率の集計結果は図-6 に示す通りである。最も多い正解数は「3 問正解」31.0%であり、次いで「2 問正解」23.3%、「4 問正解」20.7%となった。

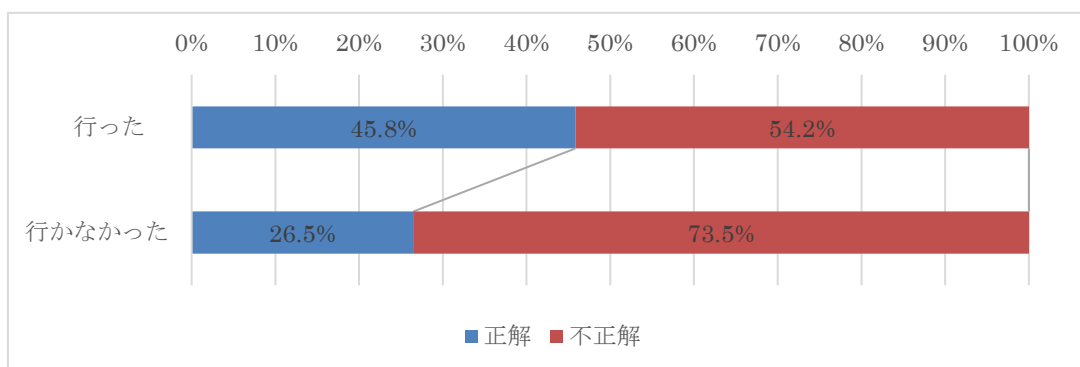
3-2-2. 投票行動と選挙知識の関連について

図-7. 投票行動別に見た「選挙日」(N=116, 単位:%)



($X^2=4.63, df=1, p<.05$)

図-8. 投票行動別に見た「投票受付時間」(N=116, 単位:%)



($X^2=4.67, df=1, p<.05$)

上記のことを含め、投票行動と 5 つの選挙に関する設問の正誤をカイ二乗検定にかけたところ、「選挙日」($X^2=4.63, df=1, p<.05$)と「投票受付時間」($X^2=4.67, df=1, p<.05$)の 2 つの設問に 5%水準で有意に関連が見られた。どちらも投票に「行った」と回答したグループが多く正解しているのが見て取れる。しかし、「不在者投票制度」、「ネット選挙」、「18 歳未満の選挙」についての設問には有意差は確認できなかった。これは、不在者投票制度のような選挙制度の知識不足によって投票行動に影響を及ぼすとは必ずしも言えないという結果となった。仮説①

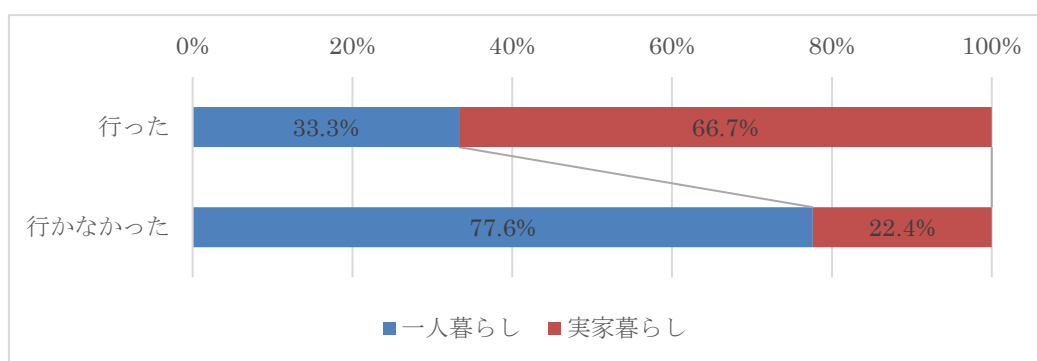
の検証としては、投票日時についての知識は問われるが、より深い制度に対しての知識は投票行動に影響を及ぼさないと考えられ、仮説の立証には至らなかったものとする。

3-3. 投票行動と居住環境 について

投票行動と居住環境について述べる前に留意しておきたい点として、サンプル数が極端に少ないため、本稿では居住環境についての設問「その他」を除外して検定処理を行っている。

3-3-1. 投票行動と居住環境

図-9. 投票行動別に見た居住環境 (N=115, 単位:%)



($\chi^2=22.69, df=1, p<.01$)

仮説②の検証を行うため、投票行動に関する質問と、居住環境に関する質問の関連をクロス集計表 (図-14) で整理した結果、1%水準で有意に関連が見られた。(X²=22.69,df=1,p<.01)「一人暮らし」で「行った」という回答は 33.3%であり、「実家暮らし」で「行った」と回答は 66.7%と、一人暮らしよりも実家暮らしの人のほうが投票に参加する傾向が見て取れる。このことから、一人暮らしの人は実家暮らしの人よりも投票率が低いのではないかという仮説②は証明されたと考えられる。

3-3-2. 居住環境と家族会話頻度

仮説②の検証を踏まえ、さらに実家暮らしの人の方が投票に参加した理由として家族との会話有無が関わっているのではないかと考察し、実態を明らかにするために「居住環境」と「家族との会話頻度」とのカイ二乗検定を行った。

図-10. 居住環境と家族との会話頻度の関係性 (N=115, 単位%)

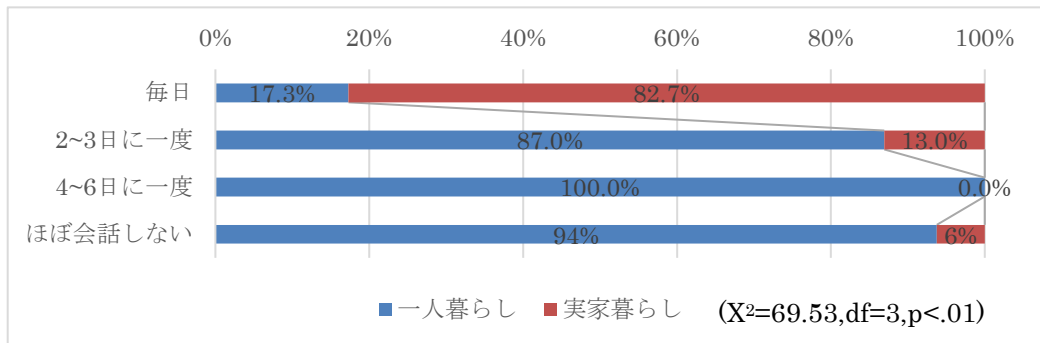


図-10 はカイ二乗検定の結果を整理したものである。「居住環境」と「家族会話の頻度」は1%水準で有意な差が確認できた。 $(X^2=22.69, df=1, p<.01)$ 「実家暮らし」の人は明らかに「一人暮らし」の人よりも家族との会話頻度が高い。「実家暮らし」という家族との接触機会の多さがこの結果に結びついたと考えられる。

3-3-3. 家族との政治的な会話について

図-11. 家族との政治会話頻度について (N=116, 単位%)

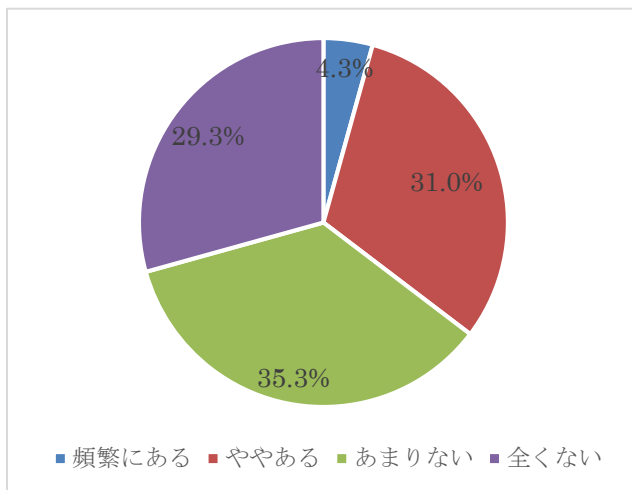
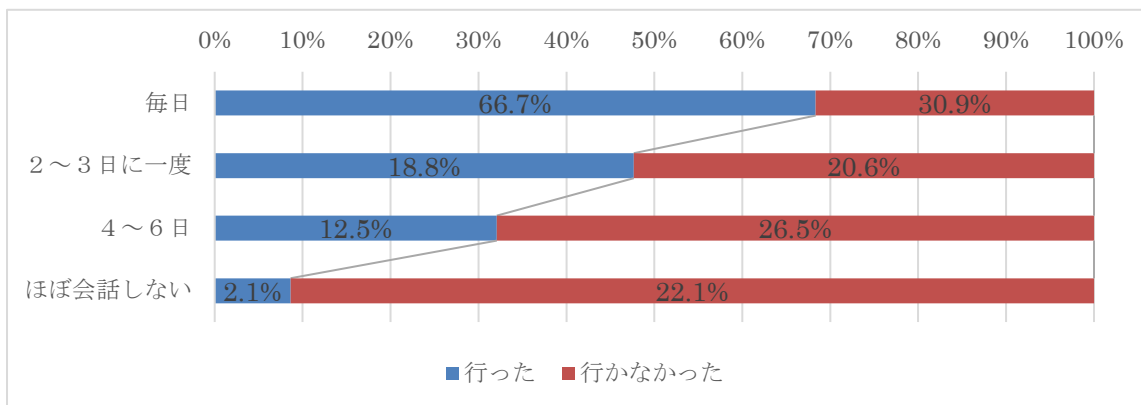


図-11 は家族との会話で政治的な話になったことはあるかという設問に対する回答の集計結果である。「頻繁にある」4.3%、「ややある」31.0%、「あまりない」35.3%、「全くない」29.3%となった。「頻繁にある」「ややある」と政治的な会話になると自覚している回答者は3割~4割ほどを占める結果となった。

3-3-4. 投票行動と家族会話の関連

家族との会話頻度が投票行動に影響を及ぼすのか、「家族との会話頻度」と「投票行動」でカイ二乗検定を行うことにした。図-12はその結果を整理したものである。

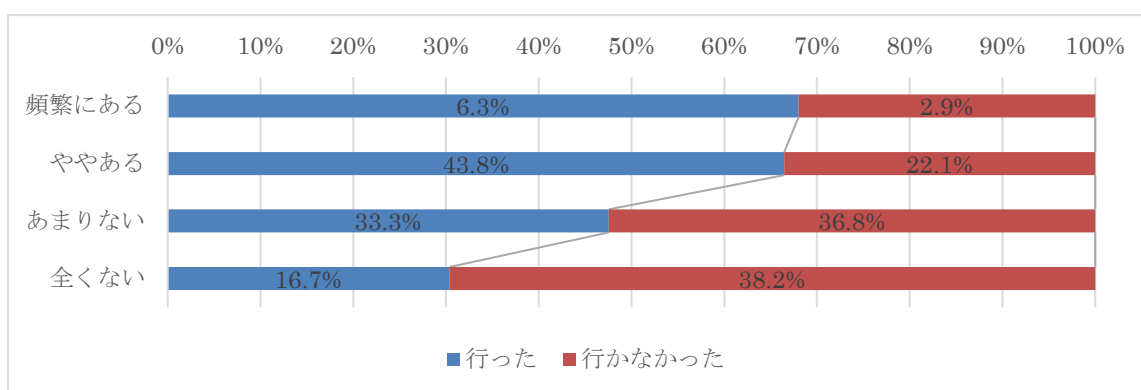
図-12. 家族との会話頻度から見る投票行動(N=116,単位:%)



($X^2=18.73, df=3, p<.01$)

カイ二乗検定の結果、「家族との会話頻度」と「投票行動」は 1%水準で有意差が認められる結果となった。(X²=69.53,df=3,p<.01)図-12 を読み取ると分かりやすいが、会話頻度が高い順に投票に参加している人数が増えていることがわかる。家族との会話が投票行動を行うという影響を与えている。つまり、仮説の更なる考察としてあげた、家族との会話が投票行動に影響を及ぼすという考えが実証された結果となった。では、家族との政治会話頻度が高い家庭はさらに投票行動との差が出るのではないかという考察のもと、「家族との政治的な会話頻度」と「投票行動」のカイ二乗検定を行うことにした。

図-13. 家族との政治会話頻度から見る投票行動 (N=116,単位%)



($X^2=9.54, df=3, p<.05$)

図-13 はカイ二乗検定を纏めたものとなる。結果は 5%水準の有意差が認められた。(X²=9.54,df=3,p<.05)家族間での政治的な会話が「全くない」とした回答と「頻繁にある」「ややある」とした回答を比べると、差は視覚でも確認できる。しかし、前述した家族の会話頻度の

結果と比べると大きな有意差は確認できなかった。図を読み取ると、「頻繁にある」と回答した人と「ややある」と回答した人は投票率に関して、ほぼ同じ比率を保っている。「頻繁にある」と「ややある」の回答者を比べると投票行動に関する差はないとも考えられるが、今回の調査では「頻繁にある」と回答したサンプル数が少ないため、サンプルの偏りの可能性も考慮しなければならない。

3-4. メディア媒体が人々に与える影響

3-4-1. メディア媒体と政治的関心の関連

仮説③の検証のため、サンプル数が少なかった項目「その他」を除いた「普段利用しているメディア媒体」を独立変数、「政治的な関心の程度」を従属変数とした重回帰分析を実施した。その結果、「普段利用しているメディア媒体」と「政治的な関心の程度」の関連は認められないという結果となった。しかし、サンプル数の少ない項目「その他」を除いた「投票時に参考にしたメディア媒体」を独立変数、「政治的な関心の程度」を従属変数とした重回帰分析を行ったところ、「テレビ」($\beta=.393, p<.05, R^2=.317$)の投票時の参考程度が、政治的な関心の程度に影響を及ぼす可能性が 5%水準で有意で認められた。この結果から、普段利用しているメディア媒体ではなく、投票時に参考にしたメディア媒体「テレビ」によって影響を受ける可能性があることが判明した。

3-4-2. メディア媒体と 18 歳選挙権の関連

次にメディア媒体が 18 歳選挙権について人々にどのような影響を及ぼすのか。関連を調べるため「投票時に参考にしたメディア媒体」を独立変数、「18 歳選挙権についての考え」を従属変数として重回帰分析を行った。表-2 は重回帰分析で有意差が認められた結果を整理したものである。留意しておきたい点として、「投票に参考したメディア媒体」の項目「その他」はサンプル数が非常に少ないため、除外して行っている。

有意差が見られた設問は 18 歳選挙権によって「投票に行きたいと思う」と「動画配信」($\beta=-.559, p<.05$)、「政治について今まで以上に知りたいと思う」と「雑誌」($\beta=-.453, p<.05$)、「動画は配信」($\beta=-.551, p<.05$)、「政治について今まで以上に考えていきたいと思う」と「動画配信」($\beta=-.588, p<.05$)、「政治が身近な存在になると思う」と「テレビ」($\beta=.382, p<.05$)、「動画配信」($\beta=-.704, p<.01$)、「投票率が上がると思う」と「テレビ」($\beta=.438, p<.05$)の項目である。

以上の結果から、18 歳選挙権について考えを尋ねた設問で、多くの関連が見られたメディア媒体「動画配信」は、18 歳選挙権についての意見に対して、強く影響を及ぼしていると考えられる。

表-2. 「投票時に参考にしたメディア媒体」が「18歳選挙についての考え」に及ぼす影響

18歳選挙権について	メディア媒体	接触の程度(B)	R ²
投票に行きたいと思う	動画配信	-0.559 *	.390
政治について今まで以上に知りたいと思う	雑誌	-0.453 *	.363
	動画配信	-0.551 *	
政治について今まで以上に考えていきたいと思う	動画配信	-0.588 *	.373
政治が身近な存在になると思う	テレビ	.382 *	.461
	動画配信	-0.704 **	
投票率が上がると思う	テレビ	.438 *	.349

3-5. 18歳選挙権について

本稿の研究仮説として、18歳選挙権の獲得によって未成年の政治的関心度が高くなっているのではないかという仮説を立てた。この項では18歳選挙権についての設問を主に分析していく。

3-5-1. 18歳選挙権についての賛否

図-14. 18歳選挙権についての賛否 (N=114, 単位:%)

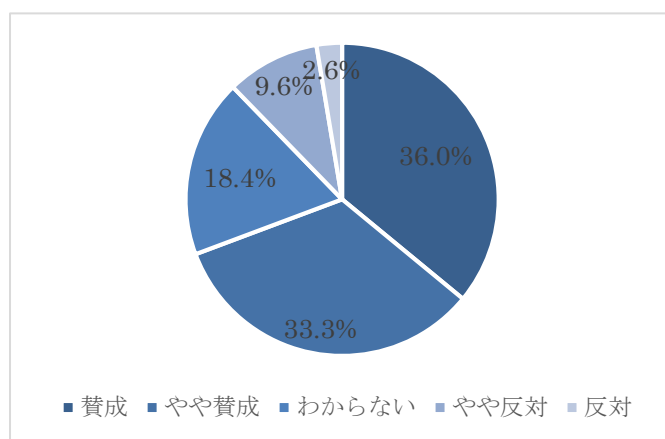


図-14は18歳選挙権についての賛否の割合を円グラフに整理したものである。「賛成」36.0%、「やや賛成」33.3%、「わからない」18.4%、「やや反対」9.6%、「反対」36.0%という結果となった。「賛成」と「やや賛成」が訳7割ほどを占める結果となった。このことから、18歳選挙権は大部分の人々が賛同していることが読み取れる。

3-5-2. 18歳選挙権についてどう考えるか

18歳選挙権についての考えを分析するため、5段階評定の設問を9つ配置した。図-15は回答結果をまとめたものであり、図-17はその回答を賛否に簡略化してまとめたものである。18歳選挙権に対して、「投票に行きたいと思う」という設問に「そう思う」が32.2%、「まあそう思う」が37.4%と肯定的な印象が全体で7割近くあることがわかった。「政治について今まで以上に知りたいと思う」については「そう思う」27.0%、「まあそう思う」43.5%。「政治について今まで以上に考えていきたいと思う」についても「そう思う」33.0%、「まあそう思う」39.1%

と「投票に行きたいと思う」とほぼ同程度の割合を肯定意見が占めた。こうした結果から、18歳選挙権によって政治的関心度が高まったと述べることはできないのではないだろうか。

図-15. 18歳選挙権についての考え（単位：%）

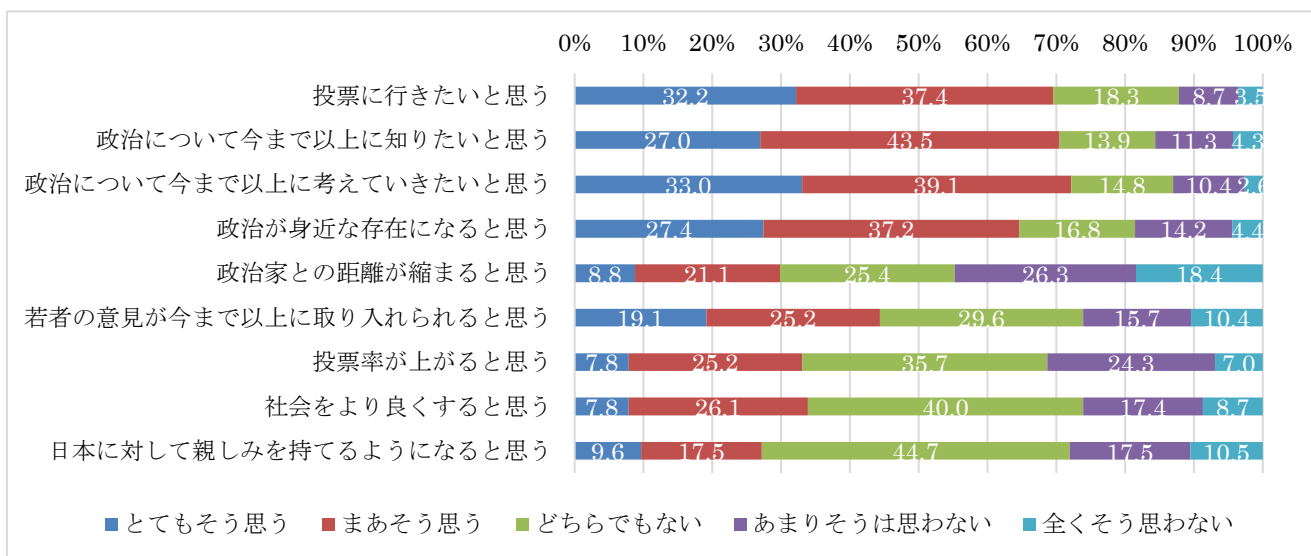


図-16. 18歳選挙権についての賛否（単位：%）

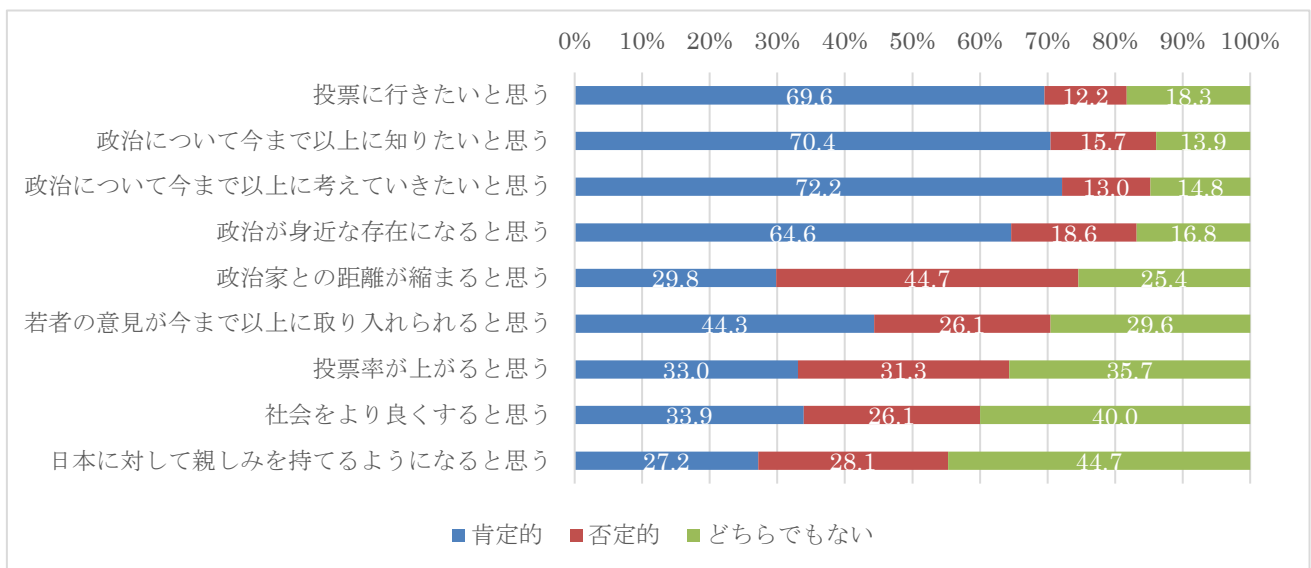


表-3. 因子分析

	客観性	主体性
Q14-6 若者の意見が今まで以上に受け入れられると思う	0.830	0.200
Q14-8 社会をより良くすると思う	0.802	0.249
Q14-5 政治家との距離が縮まると思う	0.774	0.223
Q14-9 日本に対して親しみを持てるようになると思う	0.759	0.269
Q14-7 投票率が上がると思う	0.718	0.190
Q14-3 政治について今まで以上に考えたいと思う	0.215	0.915
Q14-2 政治について今まで以上に知りたいと思う	0.269	0.905
Q14-1 投票に行きたいと思う	0.195	0.845
Q14-4 政治が身近な存在になると思う	0.466	0.607

さらに、どのような印象が投票行動に影響を与えているのかを明らかにするために、この回答結果を元に因子分析を行った。表-3はバリマックス回転を用いた主成分分析によって析出された2つの因子を整理したものである。

析出された2つの因子のうち、第1の因子は「若者の意見が今まで以上に受け入れられると思う」、「社会をより良くすると思う」、「投票率が上がると思う」といった、18歳選挙権の影響を客観的に判断した内容で構成されており、「客観性」の因子であるといえる。第2因子は、「政治について今まで以上に考えていきたいと思う」、「政治について今まで以上に知りたいと思う」、「投票に行きたいと思う」といった個人の行動について問う設問が集まった。よって第2因子を「主体性」と名付けた。

「客観性」と「主体性」の2つの因子で投票に参加したかを問う設問とt検定を行ったところ、有意差は確認できなかった。しかし、回答者の居住環境と2つの因子についてt検定を行ったところ、「主体性」の因子に1%水準で有意差が見られた ($t=-2.68, df=75.93, p<.01$)。しかし、18歳選挙権の「客観性」、「主体性」の因子と投票行動の関連は確認できなかった。このことから、居住環境によって18歳選挙権の印象への影響が考えられるのではないだろうかと考えられる。

4. まとめ

研究仮説と3つの調査仮説を含めて分析を行った結果、仮説②の立証には成功したが、仮説①、③は棄却する結果となった。次に研究仮説として18歳選挙権によって、未成年の政治的関心度が高まっているのではないかとこの考察は、調査対象者の92.1%が未成年という点を生かし、18歳選挙権についてのどう考えるのかを聞いた回答結果によると「政治について今まで以上に考えていきたいと思う」、「政治について今まで以上に知りたいと思う」、「投票に行きたいと思う」という項目が70%以上の割合で肯定的な意見を占めた。また、投票に参加した理由を記述式で尋ねたところ、「義務感」の次に「投票権の獲得」を理由に参加したと回答した人々が多かった。このことから、18歳選挙権によって未成年の政治的関心度が高まっていると

考察できる。

若者の投票率の低下は、選挙のたびに取り沙汰される問題だ。今回の調査では投票に参加しなかった人々にも理由を尋ねており、「住民票を移していない」という回答が多く寄せられた。大学生という特性上、住民票を現住居に移さなくても、生活に得端不便がないというのが一番の原因ではないだろうか。大学生の投票率の上昇を目指すならば、こうした住民票を巡る制度を今一度見直す必要があるだろう。また、投票時に参考にしたメディア媒体にも現代の若者らしい結果が現れた。所謂4マス媒体の一つである「新聞」よりも、「ニュースサイト・アプリ」を参考にしたと回答した人々が多かった。これは、紙媒体での「新聞」の代わりが、インターネットを介した「ニュースサイト・アプリ」に移り変わろうとしているのではないだろうか。インターネット選挙運動も将来において活発になっていくと予測できる。

インフラが整い、勝ち組・負け組だけではなく、個人の生き方として多様なライフワークを選択できる現代日本において、共働きや個人の趣味を大切にする価値観は珍しいことでもなく、家族の絆は昔よりも重要視されなくなったのではないだろうか。本稿の調査で証明した「家族との会話頻度」が高いほど投票参加する人々が増える傾向にあるという結果は、若者の投票率の低下という問題に“家族との絆”という新たな突破口として、問題解決の糸口となるのではないだろうか。

引用文献

朝日新聞（夕刊社会1, 2016/06/25 発行）「高3、投票を考える授業 棄権ありの模擬選挙・架空の政見放送 参院選【西武】」

「参議院議員通常選挙における年代別投票率の推移」, 総務省, HP, 2017/01/10 閲覧

http://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo_s/news/sonota/nendaibetu/

公益財団法人明るい選挙推進協会(2015/7)「18歳選挙権認知度調査(平成27年7月)調査結果の分析」, 2017/02/26 閲覧

http://www.akaruisenkyo.or.jp/wp/wp-content/uploads/2010/07/18sai_bunseki.pdf

総務省(2016/12)「18歳選挙権に関する意識調査」, 2017/02/26 閲覧

http://www.soumu.go.jp/main_content/000456091.pdf

参考文献

阿由葉大生, 柴田邦臣(2014)「若年女性の投票行動、政治意識、情報行動」『大妻セレクション2012』

総務省 HP, 2017/02/20 閲覧

<http://www.soumu.go.jp/>

総務省(2014/03)「インターネット選挙運動解禁に関する調査報告書」, 2017/02/27 閲覧

http://www.soumu.go.jp/main_content/000293496.pdf

田辺俊介編著(2014)『民主主義の「危機」：国際比較調査からみる市民意識』勁草書房,

大学生の社会参加意識に関わる調査

2016年 月 日
所属先：情報学部メディア表現学科
担当教員：日吉昭彦
調査員：吉田美穂

この調査は、文教大学湘南キャンパス内授業「メディア調査研究法Ⅲ」で使用するものです。文教大学の生徒を対象に、大学生の社会参加に対する意識を明らかにすることを目的としています。回答者のプライバシーの保護に配慮し、ご回答はすべて統計的に処理しますので、ご迷惑をお掛けすることはございません。是非とも、率直な意見をお聞かせください。お忙しいところ、誠に申し訳ありませんが、ご協力をどうぞよろしくお願い致します。

ご記入にあたってのお願い

- (1) この質問紙には、受け取ったご自身がお答えください。
- (2) 質問紙は回収後、すべて整理番号に従って取り扱います。
- (3) お答えになりにくい質問については、無記入でも結構です。
- (4) 質問への回答は、特に指示のない限りあてはまる回答選択肢の項目番号に○をつけてください。
- (5) 質問への回答で、回答選択肢に当てはまる項目がない場合には、その他の項目番号に○をつけ、
() に具体的な内容を簡単に記入してください。
- (6) 冊子は10ページ、質問は全部37問、回答にかかる時間は15分です。
- (7) ご記入は、鉛筆あるいは黒か青のボールペンなどをお願いします。また、回答を訂正する場合は、
前の回答を消しゴムで消すか、×印をつけるなどして、訂正したことを明示してください。
- (8) ご記入が終わりましたら、担当者が回収に参りますので、指示をお待ちください。
- (9) 他授業などで、この調査に回答したことがある方は、お手数ですが担当者にお声掛けください。

整理番号 _____

【問1】正しいと思う選択肢を選んでください。(当てはまるもの1つを選択)

第24回参議院通常選挙の投票日の日付をお答えください。

1. 7月8日 0% 2. 7月9日 5.2% 3. 7月10日 84.5% 4. 7月11日 5.2%
5. わからない 5.2%

【問2】正しいと思う選択肢を選んでください。(当てはまるもの1つを選択)

一般的な投票所の開閉時間をお答えください。

1. 午前6時～午後8時まで 12.9% 2. 午前7時～午後8時まで 34.5%
3. 午前8時～午後8時まで 36.2% 4. 午前7時～午後7時まで 6.0%
5. わからない 10.3%

【問3】正しいと思う選択肢を選んでください。(当てはまるもの1つを選択)

仕事や旅行が理由で不在者投票制度を利用する場合は、郵便等による投票はできず、直接投票所に向かなければいけない。

1. そうだと思う 40.5% 2. 違うと思う 42.2% 3. わからない 17.2%

【問4】インターネットでの選挙活動の禁止行為だと思うものを1つ選んでください。(1つに○)

1. 自分で選挙メッセージを掲示板・ブログなどに書き込む 10.6%
2. 選挙運動のメッセージをSNSで広める 15.0%
3. 自分で電子メールを利用した選挙活動をする 57.5%
4. 選挙運動の様子を動画サイトに投稿する 4.4%
5. わからない 12.4%

【問5】18歳未満の選挙運動について正しいと思うものを1つ選んでください。(1つに○)

1. 18歳未満の選挙運動は全て禁止されている 52.6%
2. 18歳未満の選挙運動はネット選挙のみ禁止されている 5.2%

3.18歳未満の選挙運動はネット選挙のみ解禁されている 5.2%

4.18歳未満の選挙運動は禁止されていない 14.7%

5.わからない 22.4%

【問6】あなたは、普段から支持する候補者または政党がありますか。(1つに○)

- 1.ある 13.0% 2.好ましいと思っているが、支持はしていない 11.3%
- 3.ない 73.9% 4.その他 ()
1.7%

【問7】家族全体で、普段から支持する候補者または政党がありますか。(1つに○)

- 1.ある 12.1% 2.ない 83.6%
- 3.その他 ()
4.3%

【問8】普段、あなたは以下のメディア媒体をどの程度の頻度で利用していますか。(それぞれの項目のあてはまるものに○) n=116

	頻繁に利用している	利用している	どちらとも言えない	たまに利用している	利用しない
新聞	2.6%	9.5%	5.2%	31.0%	51.7%
雑誌	6.0%	18.1%	10.3%	38.8%	26.7%
テレビ	57.8%	23.3%	6.0%	8.6%	4.3%

ラジオ	8.7%	15.7%	7.8%	26.1%	41.7%
LINE	76.7%	19.0%	2.6%	1.7%	0%
SNS (Facebook, Twitter など)	74.1%	14.7%	2.6%	3.4%	5.2%
WEBサイト	54.3%	31.0%	7.8%	2.6%	4.3%
掲示板	9.5%	11.2%	19.8%	19.0%	40.5%
ブログ	3.4%	8.6%	17.2%	17.2%	53.4%
ニュースサイト・アプリ	21.6%	32.8%	15.5%	16.4%	13.8%
動画配信サイト (YouTube, ニコニコ動画 など)	52.2%	34.8%	4.3%	4.3%	4.3%
その他の () *	0%	0%	0%	0%	0%

*上記の他に項目にないメディア媒体を利用していましたら、その他の空欄にご記入ください

【問9】現在、あなたはどのような情報に関心を持っていますか。(それぞれの項目の当てはまるものに○)

	とても関心がある	関心がある	どちらとも言えない	あまり関心がない	関心がない
政治	5.2%	41.4%	22.4%	14.7%	16.4%
スポーツ	17.4%	28.7%	13.0%	28.7%	12.2%
エンタメ	29.6%	34.8%	14.8%	10.4%	10.4%
経済	1.7%	35.7%	31.3%	18.3%	13.0%
事件・事故	12.9%	50.9%	19.0%	11.2%	6.0%
グルメ	22.6%	30.4%	18.3%	17.4%	11.3%
ライフスタイル (旅行・恋愛・ファッション など)	27.6%	35.3%	11.2%	14.7%	11.2%
国際	10.4%	33.0%	30.4%	18.3%	7.8%

災害関係	16.5%	42.6%	25.2%	8.7%	7.0%
IT・科学	7.8%	28.4%	25.0%	25.9%	12.9%
その他の ()	0%	0%	0%	0%	0%

*上記の他に項目にない、関心がある事柄がありましたら、その他の空欄にご記入ください

【問 10】第 24 回参议院総選挙であなたは投票に行きましたか。期日前投票、不在者投票を含みます。(1つに○)

1.行った 41.4% 2.行かなかった (【問 13】へ進んで下さい
58.6%)

※【問 10】で「1.行った」と回答した方のみ、お答えください。

【問 11】あなたが投票に行ったのはなぜですか。理由をお答えください。(自由回答)

※【問 10】で「1.行った」と回答した方のみ、お答えください。記入後【問 14】へ進んで下さい。

【問 12】あなたが投票するうえで、以下のメディア媒体をどの程度参考にしていましたか。(それぞれの項目のあてはまるものに○)

	とて も参 考し た	参 考 に し た	ど ち ら も 言 え な い	あ ま り 参 考 し な か つ た	参 考 に し て い な い
新聞	10.6%	19.1%	14.9%	12.8%	42.6%

雑誌	0%	4.3%	17.0%	12.8%	66.0%
テレビ	19.1%	23.4%	17.0%	14.9%	25.5%
ラジオ	2.1%	2.1%	12.8%	4.3%	78.7%
LINE	4.3%	2.1%	10.6%	4.3%	78.7%
SNS (Facebook, Twitter など)	4.3%	21.3%	14.9%	2.1%	57.4%
WEBサイト (政党・候補者ホームページ など)	10.6%	25.5%	14.9%	2.1%	46.8%
掲示板	2.1%	4.3%	10.6%	6.4%	76.6%
ブログ	0%	4.3%	10.6%	12.8%	72.3%
ニュースサイト・アプリ	12.8%	19.1%	17.0%	6.4%	44.7%
動画配信サイト (YouTube, ニコニコ動画 など)	2.1%	0%	10.6%	6.4%	80.9%
その他の ()	0%	50%	50%	0%	0%

*上記の他に項目にないメディア媒体を参考にしていましたら、その他の空欄にご記入ください

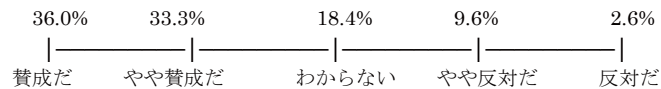
※【問 10】「2.行かなかった」と回答した方のみ、お答えください。

【問 13】あなたが投票に行かなかったのはなぜですか。理由をお答えください。(自由回答)

【問 14】2016年6月19日に選挙権を「20歳」から「18歳」に引き下げる改正公職選挙法が執行されました。選挙権の年齢引き下げにあなたはどう思いますか。(それぞれの項目のあてはまるものに○)

	とても 思う	まあ そう 思う	どちら とも言 えない	あまり そう 思わ ない	まっ たく そう 思わ ない
投票に行きたいと思う	32.2%	37.4%	18.3%	8.7%	3.5%
政治について今まで以上に知りたいと思う	27.0%	43.5%	13.9%	11.3%	4.3%
政治について今まで以上に考えていきたいと思う	33.0%	39.1%	14.8%	10.4%	2.6%
政治が身近な存在になると思う	27.4%	37.2%	16.8%	14.2%	4.4%
政治家との距離が縮まると思う	8.8%	21.1%	25.4%	26.3%	18.4%
若者の意見が今まで以上に取り入れられると思う	19.1%	25.2%	29.6%	15.7%	10.4%
若者の投票率が上がると思う	7.8%	25.2%	35.7%	24.3%	7.0%
社会をより良くすると思う	7.8%	26.1%	40.0%	17.4%	8.7%
日本に対して親しみが持てるようになると思う	9.6%	17.5%	44.7%	17.5%	10.5%

【問 15】 選挙権の年齢引き下げにあなたは賛成ですか。反対ですか。(1つに○)



【問 16】 【問 15】 でその選択肢を選んだ理由をお答え下さい。(自由回答)

【問 17】 あなたはどのような政策に関心がありますか。(それぞれの項目のあてはまるものに○)

	とても 関心 がある	関 心 が あ る	ど ち ら と も 言 え な い	あ ま り 関 心 が な い	関 心 が な い
社会福祉	12.9	37.9	25.0	16.4	7.8
雇用	31.0	46.6	12.9	6.0	3.4
景気	26.7	52.6	10.3	6.9	3.4
防衛	13.2	32.5	37.7	9.6	7.0
外交	14.7	35.3	31.9	11.2	6.9
少子化対策	15.5	43.1	21.4	11.2	7.8
憲法改正	25.0	25.9	25.9	15.5	7.8
消費税	33.6	46.6	13.8	1.7	4.3
教育	21.6	48.3	19.8	6.9	3.4
エネルギー・環境	8.6	36.2	31.9	17.2	6.0
災害対策・復興	19.1	43.5	26.1	7.0	4.3
その他* ()	0	0	0	0	0

*上記の他に項目にない政策に関心がありましたら、その他の空欄にご記入ください

【問 18】 あなたの現在の居住環境についてお答えください。(1つに○)

1.一人暮らし 56.6 2.実家暮らし 40.5 3.その他 (0.9)

【問 19】 あなたは 1 週間で家族とどの程度会話しますか? LINE などの文面上の会話も含めるとします。

(1つに○)

- 1.毎日 45.7 2.二～三日に一度は会話する 19.8 3.四～六日に一度は会話する 20.7
4.ほぼ会話しない 13.8

【問 20】ご家族との会話で政治的な話題になることがありますか。(1つに○)

- 1.頻繁にある 4.3 2.ややある 31.0 3.あまりない (【問】21へ進んで下さい) 35.3
4.全くない (【問】2へ進んで下さい) 29.3

※【問 20】「1.頻繁にある」「2.ややある」と回答した方のみ、お答えください。

【問 21】それはどういった場面のときに話題に上がることが多いですか。一番多かった場面をお答えください。(自由回答) 回答例：「夕食後の家族みんなが集まっているときに」

※【問 20】「1.頻繁にある」「2.ややある」と回答した方のみ、お答えください。

【問 22】その際、話題の情報源は何ですか。一番あてはまるものをお答えください。(1つに○)

- 1.新聞 2.8 2.雑誌 83.3 3.テレビ 2.8 4.ラジオ 2.8 5.SNS 2.8
6.口コミ 0 7.ブログ 0 8.掲示板 2.8 9. WEB サイト 2.8
10. その他 (2.8)

※【問 20】「1.頻繁にある」「2.ややある」と回答した方のみ、お答えください。

【問 23】その話は政治に対してどのような意識のときが多いですか。一番あてはまるものをお答えください。(1つに○)

- 1.否定的だ 40.0 2.肯定的だ 2.5 3.中立的だ 20.0 4.なんともいえない 30.0
5.その他 (7.5)

【問 24】友人との会話で政治的な話題になることがありますか。(1つに○)

- 1.頻繁にある 0 2.ややある 14.6 3.あまりない (【問】23へ進んで下さい) 49.5
4.全くない (【問】23へ進んで下さい) 35.9

※【問 24】「1.頻繁にある」「2.ややある」と回答した方のみ、お答えください。

【問 25】それはどういった場面のときに話題に上がることが多いですか。一番多かった場面をお答えください。(自由回答) 回答例：「通学バスの中で」

※【問 24】「1.頻繁にある」「2.ややある」と回答した方のみ、お答えください。

【問 26】その話題の情報源は何ですか。一番あてはまるものをお答えください。(1つに○)

- 1.新聞 2.雑誌 3.テレビ 37.5 4.ラジオ 5.SNS 37.5
6.口コミ 7.7.ブログ 8.掲示板 12.5 9. WEB サイト 12.5
10. その他 ()

※【問 24】「1.頻繁にある」「2.ややある」と回答した方のみ、お答えください。

【問 27】その話は政治に対してどのような意識のときが多いですか。一番あてはまるものをお答えください。(1つに○)

- 1.否定的だ 18.2 2.肯定的だ 9.1 3.中立的だ 45.5 4.なんともいえない 27.3
5.その他 (0)

【問 28】あなたは政治的活動に参加したことがありますか。(1つに○)

(例：デモに参加した など)

- 1.ある 0.9 2.ない (【問】31へ進んで下さい) 99.1

※【問 28】「1.ある」と回答した方のみ、お答えください。

【問 29】よろしければ、活動内容について具体的にお答えください。(自由回答)

※【問28】「1.ある」と回答した方のみ、お答えください。

【問30】その活動に現在も継続的に参加しようと思っていますか。(1つに○)

- 1.思っている 0 2.思っていない 0 3.わからない 0

【問31】あなたは政治的な活動をする団体に参加したことがありますか。(1つに○)

(例：SEALDsの団体に加入した など)

- 1.ある 0 2.ない(【問34へ進んで下さい) 100

※【問31】「1.ある」と回答した方のみ、お答えください。

【問32】よろしければ、その団体について具体的にお答えください。(自由回答)

※【問31】「1.ある」と回答した方のみ、お答えください。

【問33】その団体に現在も参加したいと思っていますか。(1つに○)

- 1.思っている 0 2.思っていない 0 3.わからない 0

- 4.既に脱退した 0

【問34】過去に学校の授業で、「模擬選挙」を経験したことがありますか。(1つに○)

- 1.ある 27.2 2.ない 72.8

【問35】あなたの性別を教えてください

- 1.男性 43.0 2.女性 56.1 3.その他 0.9

【問36】あなたの学部・学科・学年を教えてください

学部	学科	年
----	----	---

【問37】あなたの年齢を教えてください

歳

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。